

(様式) 府立松原高等学校 「学校運営協議会」 報告書 (第2回)

日時	令和2年11月27日(金) 15:30~17:00			
出席者	運営協議会委員	職名等	学校事務局	校務分掌等
	房本 晃	(福) パオバブ福祉会理事	平野 智之	校長
	菊地 栄治	早稲田大学教授	藤原 和子	教頭
	高橋 実加	本校PTA会長	木村 悠	首席
			中川 泰輔	人権教育主担
	教職員等			
	岡垣 有香(1学年) 眞杉 凌(1学年人担) 坂東 修平(1学年生活指導) 南岡 靖之(2学年代表) 岡本 虹穂(2学年) 南 玲奈(2学年)			
おもな テーマ	今年度の重点項目の進捗について 運営協議会委員からの感想・提言			
協議内容 の概略	<p>①学校教育自己診断アンケート(生徒用)速報値 実践してみてわかることが多くある。年に一度は公開授業を設けたい。コロナ禍においてこそ丁寧な指導が必要。実践もできている。(学校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活充実 80%、「学級の居心地」、「先生は相談に乗ってくれる」等も向上。 ・教え方の工夫72%、わかりやすい授業60%→64% <p>②深い学びプロジェクト進捗 「問い」の設定、授業の流れ、ルーブリック。「今日のやること」に評価の観点も示す。ミッションを達成するために知識を使うような授業を作る。GOLDEN理論について。(中川教諭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業での工夫 <ul style="list-style-type: none"> -商品開発でインスタント食品をテーマに、コンセプトを重視して実施。社会問題や自分が欲しいけどないもの、災害の問題など。「会社の会議室と思って議論しよう」という設定。(岡垣教諭) -生徒たちの言葉を言い直さないで、生徒のパズルをつなげる。「向き合いたくない自分と向き合うべきか」というクラスへの問いで支援生を巻き込んでいった。「正しさ」にこだわりすぎない。(坂東教諭) -支援生の個別授業から始めたゲーム性のあるアクティビティを必修の帯活動として応用。英語をとにかくたくさん使う50分に。ゲームだけど、実は身につけている。構造化でメリハリがあり、安心して受けられる。(南岡教諭) -ロボットの良いところ、悪いところについて、個別で考えてから班で一番良いものを選ぶ。発音練習の抵抗がなく、安心できる場面。(岡本教諭) -因数分解はなぜやらならないといけないかと思いがち。作問、丸付けの授業。シャッフルして誰かのものを解いてみる。生徒のやり取り多く。(眞杉教諭) <p>③協議委員からのご意見、提言</p>			
提言内容・改善 方策	<ul style="list-style-type: none"> ・軸が浮き上がってくると自分の中に落とし込める理論を作れる。 ・授業はオーダーメイド制。誇りを持っている。 ・生徒の現実を踏まえる。過去→今→未来。社会に出たときに施行を働かせるか? ・形成的評価の形成とは、生徒だけでなく先生が形成されていくこと。 ・すべての授業ではできない。焦らずに、単元に一度できたら良い。 ・こちらの枠で測ることと生徒にこちらが近づくことの溝をどう埋められるか。 			